

平成30年 7月19日

まちづくり委員会資料

J R横須賀線武蔵小杉駅及び駅周辺の混雑緩和に向けた取組
について

資 料 J R横須賀線武蔵小杉駅及び駅周辺の混雑緩和に向けた取組について

参考資料 J R横須賀線武蔵小杉駅及び駅周辺の混雑緩和に向けた取組を進めます

まちづくり局

1 背景

(1) 現状と課題

- 2010年(平成22年)3月の横須賀線武蔵小杉駅開業以降、武蔵小杉駅の交通結節機能と駅周辺のポテンシャルが高まっている。その一方で、駅利用者は増加しており、ラッシュ時に駅構内及び駅周辺では混雑が生じ、混雑緩和に向けた対策が必要となっている。



(2) 個別箇所の課題

- 横須賀線ホームの混雑
 - ・横須賀線のホームは、多くの利用者による著しい混雑が生じている。
- 南武線下りホームの混雑
 - ・南武線下りホームは北改札(南武線口)から入場した横須賀線利用者の通路を兼ねているため、ラッシュ時には乗車待ちの徒列と通路利用者との輻輳が生じている。
- 駅周辺の混雑及び駅アクセスの改善
 - ・駅周辺の歩道では、朝ラッシュ時には、東急線方面から新南改札(横須賀線口)や周辺企業へ向かう歩行者が多く、輻輳が生じている。また、南武線北側方面から横須賀線への駅アクセスの改善が望まれている。

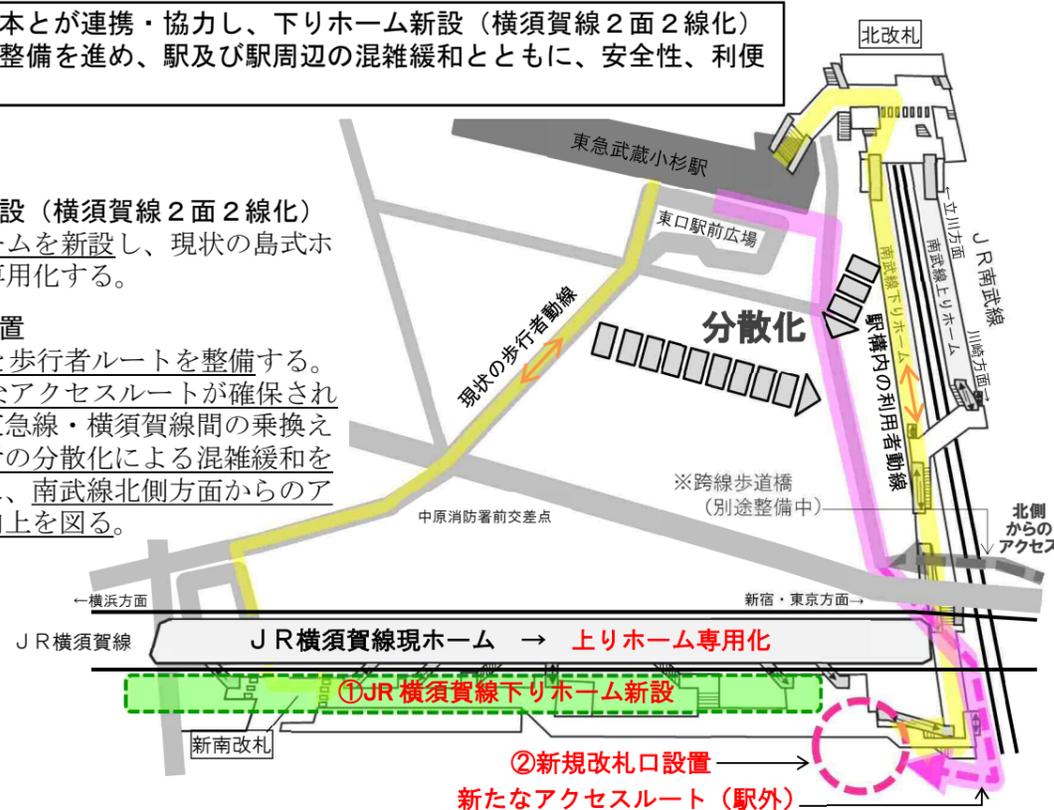
2 混雑緩和に向けた抜本対策

(1) 基本的な考え方

本市とJR東日本とが連携・協力し、下りホーム新設(横須賀線2面2線化)及び新規改札口の整備を進め、駅及び駅周辺の混雑緩和とともに、安全性、利便性の向上を図る。

<整備概要>

- ① 下りホーム新設(横須賀線2面2線化)
 - ・下り専用ホームを新設し、現状の島式ホームは上り専用化する。
- ② 新規改札口設置
 - ・新規改札口と歩行者ルートを整備する。
 - ・駅への新たなアクセスルートが確保されることで、東急線・横須賀線間の乗換えなど、歩行者の分散化による混雑緩和を図るとともに、南武線北側方面からのアクセス性の向上を図る。



(2) 費用負担の基本的な考え方

- 下りホーム新設(横須賀線2面2線化)については、設計費、工事費及び用地費等はJR東日本が負担することを基本とする。
- 新規改札口設置については、歩行者の分散化による混雑緩和が図られるとともに、南武線北側方面から駅へのアクセス性が向上するため、混雑緩和に向けた対策における市の応分の負担の観点から、設計費、工事費及び用地費等は本市が負担することを基本とする。

(3) 覚書の締結

- 早期の対策工事の実施に向け、「抜本対策の基本的な考え方」及び「費用負担の基本的な考え方」に基づき、本市とJR東日本は、2018年(平成30年)7月17日付で「JR横須賀線武蔵小杉駅混雑緩和対策工事に関する覚書」を締結した。

3 混雑緩和、安全性向上に向けた様々な取組

- ① 速効対策(JR東日本主体による事業)
 - ・南武線下りホームの一部拡幅完了(2018年4月1日供用開始)
 - ・新南改札での臨時入場口と上りエスカレーターの設置完了(2018年4月26日供用開始)
- ② ホームドアの早期設置に向けた取組
 - ・JR東日本のホームドア整備計画において、南武線は2025年度末までに、横須賀線は2032年度末までに整備することが位置づけられたが、引き続き早期設置を強く要望していく。
- ③ オフピーク通勤の推進
 - ・2017年度に南武線を利用する市職員を対象に実験的取組を実施した。今年度は、東京都の「時差Biz」にあわせ、九都県市で連携し、市内・都内企業等の協力を得ながら、取組を開始。
- ④ 駅周辺における混雑緩和対策
 - ・駅周辺における一層の混雑緩和、安全性向上に向けた様々な対策について、引き続き検討を進める。

4 抜本対策に関する今後のスケジュール(予定)

- ・2018年7月～ 下りホーム新設 設計着手
- ・2018年9月 新規改札口 調査基本設計補正予算について議会へ議案提出
- ・2018年度秋～ 新規改札口 調査基本設計着手
- ・2020年度～ 下りホーム新設 工事着手
- ・ 新規改札口 実施設計・施工協定締結
- ・2023年度 新設下りホーム 供用開始予定
- ・2023年度以降 新規改札口 供用開始



参考資料

平成30年7月17日

市長記者会見資料

川崎市

東日本旅客鉄道(株)横浜支社

JR横須賀線武蔵小杉駅及び駅周辺の混雑緩和に向けた取組を進めます

川崎市と東日本旅客鉄道株式会社横浜支社（以下、JR東日本）は、市内における地域と鉄道の持続的な発展に向け、2015年1月29日に包括連携協定を締結し、さまざまな取組を進めています。

この度、JR横須賀線武蔵小杉駅等の更なる混雑緩和対策を進めていくための基本的な事項について確認し、本日、両者で覚書を締結いたしました。

これに基づき、JR武蔵小杉駅及び駅周辺における混雑緩和に向けた取組を進め、より一層の安全性・利便性の向上を図ってまいります。

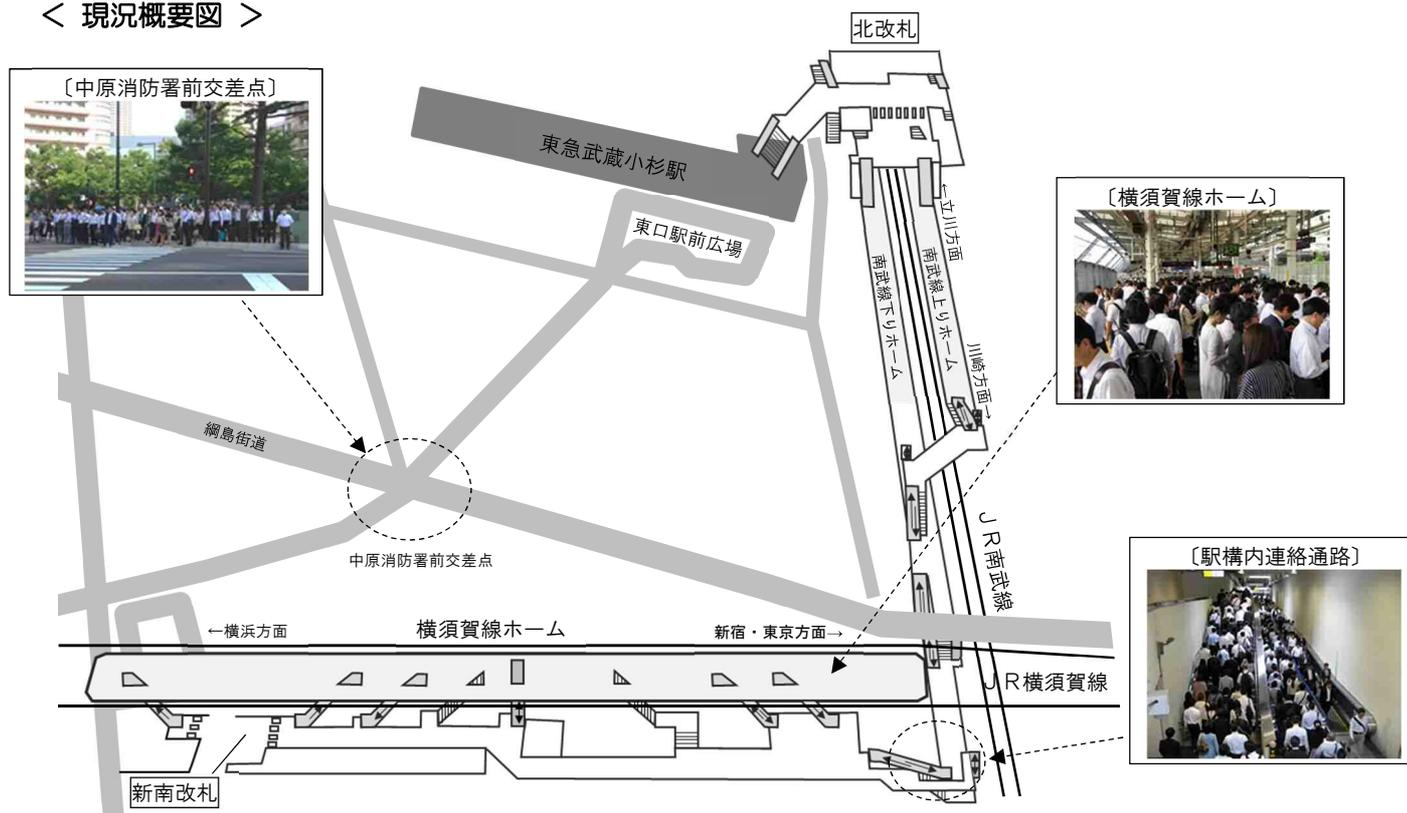
1 背景・目的

武蔵小杉駅周辺では、駅を中心とした多様な都市機能がコンパクトに集積した歩いて暮らせるまちづくりを進めており、その一環として、JR横須賀線武蔵小杉駅開業や駅前広場、周辺道路等の基盤整備を行い、交通機能強化を図ることにより、魅力と賑わいのあるまちづくりを推進しております。

また、駅のご利用者の増加に伴い、混雑緩和対策として、本年4月に新南改札への入場専用臨時改札とエスカレーターの設置、南武線下りホームの一部拡幅工事を完了し、一定の効果が現れております。

この度、更なる混雑緩和を図るための抜本的な対策として、JR横須賀線下りホーム新設（2面2線化）及び新規改札口設置の整備に向けた取組を推進してまいります。

< 現況概要図 >



2 覚書の主な内容

① JR横須賀線下りホーム新設（2面2線化）

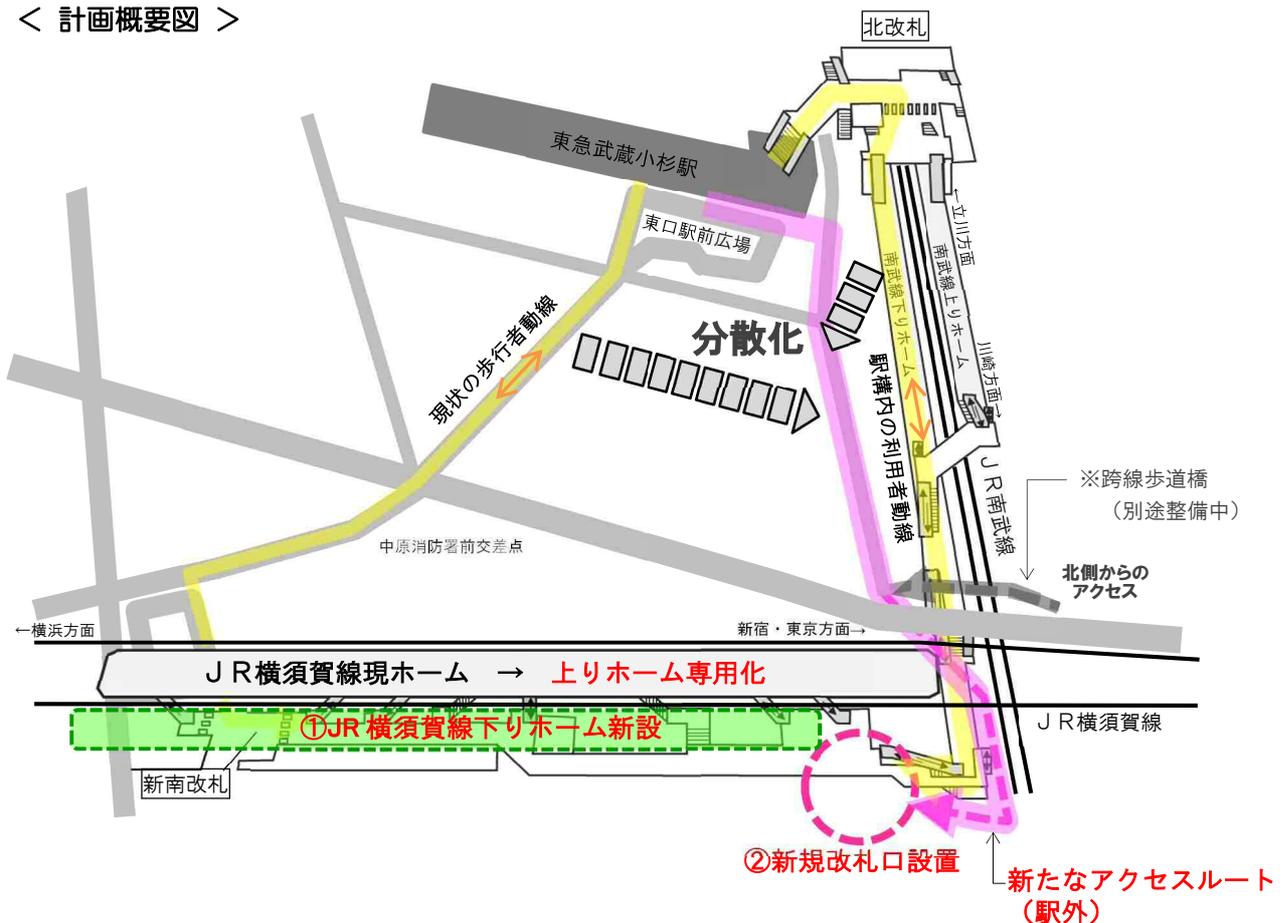
- ・横須賀線ホームの混雑緩和を図るため、下りホームを新設（2面2線化）します。
- ・下りホーム新設（2面2線化）にかかる事業費は、JR東日本が負担することを基本とします。
- ・2023年度の供用開始を目指してまいります。

② 新規改札口設置

- ・駅構内及び駅周辺の歩行者の分散化による混雑緩和と、南武線北側からのアクセス性の向上を図るため新規改札口を設置します。
- ・新規改札口設置にかかる事業費は、川崎市が負担することを基本とします。
- ・新規改札口は横須賀線下りホーム新設（2面2線化）後の供用開始を予定しております。

なお今後、設計等を通じて工期の短縮に向けた施工方法の精査を進め、早期の供用開始を目指してまいります。

< 計画概要図 >



【報道機関 問合せ先】

川崎市 まちづくり局交通政策室 武藤	電話	044-200-3546
東日本旅客鉄道(株)横浜支社 総務部企画室	電話	045-320-2706